

持続可能な林業シンポジウム

令和元年

8/24
(土)

15:00~
17:00

(開場 14:30)

●会場

桜座

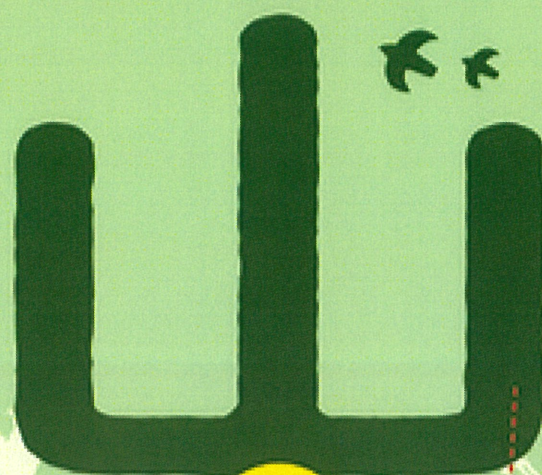
(佐川町甲 346-1)

●定員

300名

●参加費

無料



を

よくする、
つなげる、
つづける。

そのために今できること

うちの山、
どうしたらえいろう？

「森林経営」ってなんだろう？
一〇〇年後も持続できる

基調
講演

持続可能な林業とは

スイス林業の視点から、山の将来を考える

浜田 久美子氏

作家
公益財団法人 森林文化協会 理事
伊那市 ミドリナ委員会 委員



パネルディスカッション

【スイス林業との比較からみえる、佐川町の実践と今後の取り組み】

(パネリスト) 浜田 久美子氏

赤堀 楠雄氏 (林材ライター)

滝川 景伍氏 (地域おこし協力隊 (自伐型林業) 卒業生)

(司会/進行) 四宮 成晴氏

(NPO 法人 土佐の森・救国隊 副理事長、
自伐型林業推進協会 理事)

●主催：佐川町

●お問い合わせ先：佐川町役場 産業建設課 TEL 0889-22-7724

山を

よくする、
つなげる、
つづける。

そのために
今できること

経済も環境も追求する これからの「森林経営」

佐川町では、持続可能な森林の管理や保全についての取り組みを進めています。2013年からは「町内の森林で雇用を創る」ことを目的に、自伐型林業の取り組みを開始。森林所有者・施業者・そして地域にとってより良い林業を求めて実践してきました。今回、その取り組みを知っていただくために、スイスの森林管理者の育成とその森づくりに詳しい浜田久美子氏をお招きし、シンポジウムを開催します。

スイス林業とは？

経済性を無視せずに木材生産と環境の向上の両立をめざす「近自然森づくり」がスイスで実践されている林業の形。適地適木で多様な姿をつくる鍵は、森林のプロになるために十分な教育と経験を積みステップアップする仕組みを持っていること。特にフォレスターの仕事は森林管理だけでなく、森林所有者とのコミュニケーション、社会全体への普及活動など幅広い。



佐川町が取り組む〈自伐型林業〉の特徴

1. 皆伐を行わず、間伐を繰り返すことにより、山林を持続的に管理。
2. 50年後・100年後に価値ある山づくりを目指し、山に負担のかからない施業。
3. 長期的視点による経営をすることから、長きにわたり雇用を創出。
4. 一人でも施業でき専業や副業、個人のライフスタイルに合わせた経営が可能。
5. 大型機械は導入せず、初期投資や経営経費を抑えることで参入のハードルが下がる。
6. 作業道は高密につくり、車両による搬出間伐。
7. 作業道の幅員は必要最小限にし、山にやさしく災害に強い道づくり。

登壇者紹介

浜田 久美子 (はまだ・くみこ)

1961年生まれ、東京都出身。精神科カウンセラーを経て、木の力に触れたことから森林をテーマにした著述業に転身。森や木との接点を誰もが持てるようになるには？という視点で活動。近年は特に林業教育を主要テーマにしている。2000年に長野に地域の材で家を見て、東京との二住生活実践中。著書に「森の力」(岩波新書)、「スイス式森のひとの育て方〜生態系を守るプロになる職業教育システム」(帝国書房)などがある。

最新刊

スイス林業と日本の自伐型林業



(築地書館)

赤堀 楠雄 (あかほり・くすお)

1963年生まれ、東京都出身。林業・木材産業専門新聞社勤務を経て、1999年からフリー記者として、森林・林業・木材・木造住宅などに関する取材・記事執筆に従事。現在、「現代林業」、「木材情報」、「森林組合」などに連載中。2010年から長野県上田市在住。著書に「林業の営み〜木の価値を高める技術を経営へ」(農文協)、「図解入門よくわかる細粒木材のきほん」と関連(秀和システム)などがある。



滝川 景伍 (たきがわ・けいご)

1983年生まれ、京都府出身。東京で8年間出版社に勤務。2014年、高知へ。佐川町で3年間地域おこし協力隊として林業を学び、2017年10月の任期満了後は持続可能な森林整備を町内で実践している。

四宮 成晴 (しのみや・しげはる)

NPO法人土佐の森・救国隊 副理事長、自伐型林業推進協会 理事。佐川町と土佐の森のパイプ役として佐川町の自伐型林業への取り組みを初期からサポートしている。